

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：10104

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02654

研究課題名（和文）戦前昭和期における植民地文化表象研究：崔承喜が踊る朝鮮と日本、そして昭和モダン

研究課題名（英文）Colonial Cultural Representation During the Pre-war Showa Period: Choi Seung-hee, Her Performances in Korea and Japan, and Modern

研究代表者

Lee Hyunjun (Lee, Hyunjun)

小樽商科大学・言語センター・准教授

研究者番号：40708369

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：3年間にわたる本研究期間中、日本や韓国の各地で活発な資料調査を行った。特に所蔵家の資料公開の場には積極的に参加し貴重資料を提供してもらったなど、フィールドワークにおいては十分な成果をあげた。その成果は日本比較文学会の全国大会また北海道地域大会においてシンポジウムの形で発表し公開した。そして最終的に研究期間中まとめた単著に研究成果を網羅し出版することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題は戦前の日本文化の中で崔承喜の活動の在り方を読みなおすとともに、日本や韓国に散財している崔承喜関連資料の収集を網羅的に行ったことがまず大きな成果である。それを通してこれまで日本や韓国の文献の中で崔承喜関連の一次資料の誤謬や誤植（創作年度、作者名、作品名など）を訂正し、さらに一次資料の新たな分析の枠組みを提供することができた。それに加えて本研究が専門的かつ学術的な取り組みであることは言うまでもないが、研究実行の過程でフィールドワークを通して出会った学外の方々との面談や交流を通し、学問と社会との繋がりと協力関係の可能性を見出ししてきたことはもう一つ大きな成果であるといえる。

研究成果の概要（英文）：During the three-year period of my project, I have been actively conducting research and fieldwork in Japan and South Korea. In particular, I participated in collectors' shows in Tokyo and Kobe. The collectors provided me valuable materials, and I achieved sufficient results in fieldwork. I presented the summarized results of fieldwork in symposium format at the Japan Comparative Literature Conference and the Hokkaido Comparative Literature Conference. Lastly, I was able to publish all the research results I compiled during the period of my project in a single volume.

研究分野：日韓比較文学比較文化

キーワード：崔承喜 植民地文化政策 川端康成と朝鮮舞踊 モダンダンス 半島の舞姫 舞踊写真 舞踊画 対外
宣伝と朝鮮文化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

崔承喜(1911~1969年)は、日本の現代舞踊家・石井漠の下で研鑽を積み、1926年から朝鮮をはじめ、日本、中国、アメリカ大陸、ヨーロッパの各地で舞踊公演を行った。崔の公演は日本のみならず、アメリカ大陸やヨーロッパなどでも成功を収め、「半島の舞姫」は、やがて「世界の舞姫」と呼ばれるに到った。戦後は夫安漠の強い意向で北朝鮮に渡り、そこで残りの生涯を送っている。近年崔承喜の事績への関心が急速に高まりつつある。韓国、日本、中国、北朝鮮では、崔承喜をテーマにした舞台、小説、ドキュメンタリー、ミュージカルなどの様々な文化コンテンツが多数制作され、近現代における東アジアの文化的、歴史的な関係を比較考察する上で、重要な手掛かりを提供している。崔承喜は東アジアの文化的・歴史的な相互関係を語る上で、看過できない人物である。従って本研究は、文化、芸術、歴史、政治など、様々な角度からの接近を必要とし、極めて大きなテーマ性を持っている。

こうした状況のなか、崔承喜についての日韓両国における研究は、主として彼女の一代記に依拠した評伝に集中する傾向にあった。特に日本における崔承喜研究の傾向は高嶋雄三郎『崔承喜』(1956年)をはじめ、主に評伝形式にとどまり、本格的な研究や議論の展開に乏しい。しかし、崔承喜が戦前日本で自分の舞踊研究所(1935~1944)を構え積極的に活動していたため、戦前昭和期の崔承喜に関する一次資料は日本に散在している。このような崔承喜資料の蒐集や分析は、日本は勿論、韓国、中国、北朝鮮で行われている崔承喜研究の基礎研究として早急に求められる重要な課題である。

2. 研究の目的

本研究は戦前の日本で活躍した朝鮮の舞踊家崔承喜を取り上げ、その舞踊芸術がどのように表象されていたのかを探ろうとしたものである。半島出身の芸術家である崔承喜が民族芸術の主体性を日本で確保してゆく経緯、またそれを可能にした日本や朝鮮などの後援者・文化人たちの関わりを、当時の資料を通して検証し考察する。本研究の目的は、崔承喜の表象を明らかにし、彼女をモデルとする詩・絵画・写真・映画など様々な作品を生み出した戦前昭和期の芸術家たちの位置づけや再評価するところにある。

3. 研究の方法

研究方法は主に三つのパートに分け行った。第一に先行研究をレビューし、第二に日本及び韓国のフィールドワーク(資料調査、資料所蔵家への訪問およびインタビュー、近代文化や崔承喜関連の各種展示会参観など)を実施し、第三にこれらの資料をもとに分析、検討したうえ学会で研究発表を行った。とりわけ日本や韓国のフィールドワークは主に夏と春の長期休み中に行い、両国で行われた展示会は研究期間の間随時参観した。

(1)初年度は韓国中央図書館やソウル大学において、当時の新聞記事報道を中心に崔承喜や石井漠関連記事を収集した。特に崔承喜が舞踊家としてデビューする1926年から亡くなった1969年にかけて、崔承喜報道を主に行っていた『朝鮮日報』『東亜日報』『京城日報』を中心に朝鮮における崔承喜や石井漠報道のあり方を調査した。一方、日本におけるフィールドワークでは神戸映画資料館で行われた個人所蔵品の崔承喜映像上映会に参観し、資料の所在や入手経緯、さらに資料解説を聞いた。この映像は短いものでありながらも、1920年代における崔承喜舞踊上演資料として、日韓の両国において戦後初めて公開された希少映像である。このフィールドワークの成果としては資料収集家(東京在住)の面談が果たされ、収集経緯や他の崔承喜関連資料の所蔵品の有無等、直接聞き取り調査を行った。

(2)次年度は、初年度に集められた資料を検討・分析しながら、二年目には日韓における崔承喜の視覚メディア表象研究を行った。具体的に当時朝鮮の近代性を表徴していたモダンダンサー崔承喜が登場していた映画や広告のイメージを分析考察した。なかでも映画『半島の舞姫』の宣伝のために行われたイメージ戦略を主に分析した。戦前昭和期の映画界に突然現れた崔承喜が、彼女自身朝鮮舞踊家としてのイメージを保ちつつも、さらにその領域を超え日本の大衆スターとして羽ばたく上で作り上げていくモダンなイメージを広告や写真、雑誌、新聞を通して発信する様子を明らかにした。

(3)最終年度はこれまでの日本や韓国におけるフィールドワークの成果を日本比較

文学会のシンポジウムで発表し研究内容を公開した。

(4) また、研究代表者は本研究の採択前に 2016 年度北海道科学大学梶谷崇教授から分担研究の申し出を受けその課題に取り組みつつ、以後 2017 年から本研究テーマと同時に行進することになった。分担研究の内容は戦前柳宗悦と朝鮮の知識人たちの交流を探るものであり、戦前の日韓をつなぐ文化交流を明らかにするという観点においては本研究と相通じる観点があった。そのため成果報告においてはこの議論を厳密な形で分けることは難しいものの、本研究の代表者が分担研究に特に重点をおいたのは崔承喜の創作舞踊の背景にある柳宗悦の東洋美論を見直し再定義することに集中したことである。しかしながら本研究においては戦前の崔承喜舞踊活動全般を扱ったものである。つまり分担研究ではより具体的な事例の議論を深化したのが主眼であり、本研究は崔承喜をめぐる戦前日韓の網羅的議論を見直し明らかにしたものである。この点に差異を置きながら両研究課題を成立させた。

4. 研究成果

三年間にわたる研究は主に単著一冊、学会発表二回のなかでまとめることができた。詳細は以下の通りである。

まずは 2018 年 7 月 21 日日本比較文学会北海道大会において、特別企画「日韓芸術の媒介者たち—近代における文化人の活動を通して」の企画から参加し報告した。その際の発表テーマは「モダン・ガール崔承喜をうつす—1930 年代日朝におけるメディアの中の崔承喜表象」と題し、パネルディスカッションを行った。

次に 2019 年 6 月 16 日日本比較文学会第 81 回全国大会において、シンポジウム「近代日朝文化交流の再検討—近代と伝統、都市と地方」の企画に参加しそこで報告した。その際の報告テーマは「朝鮮舞踊の創作をめぐる崔承喜の「朝鮮」文化表象」と題し、研究成果を公開するとともにシンポジウムの全体的なテーマのパネルディスカッションを行った。

研究課題の公開は 3 年間を通して蓄積したフィールドワークを参照しつつ、単著『「東洋」を踊る崔承喜』(勉誠出版、2019 年)としてまとめあげ 2019 年 2 月に刊行した。

以上、研究代表者は本研究を積極的に行いながら、分担研究や他の分野の研究協力を通して一つのテーマに拘泥せず、広い視野で戦後日本文化の在りかたや文化交流、そしてそれを担う芸術家たちの活躍の詳細を明らかにすることができたのである。さらに本研究が専門的かつ学術的な取り組みであることは言うまでもないが、研究実行の過程のフィールドワークで出会った学外の関係機関の方々をはじめ、一般の方々たちとの面談などは非常に有意義であった。これによって学問と社会の繋がりの可能性を見出すことができたこと、そして大学と社会との交流の中で生み出す新たな研究アプローチの仕方や刺激があった。これも本研究のもう一つ大きな成果だといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 李賢峻
2. 発表標題 モダン・ガール崔承喜をうつすー1930年代日朝におけるメディアの中の植民地表象
3. 学会等名 日本比較文学会 北海道大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李賢峻
2. 発表標題 朝鮮舞踊の創作をめぐる崔承喜の「朝鮮」文化表象 シンポジウム：近代日朝文化交流の再検討ー近代と伝統、都市と地方
3. 学会等名 日本比較文学会 第81回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 李賢峻	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 472
3. 書名 「東洋」を踊る崔承喜	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----